

二 三和・花月字名一覽

番号	大字	三和(みわ)	地	番
五四三三二〇九八七六五四三二一	榎の源げん上う森もり渕ぶ川かわ七ななう経きよう迫さく五ご郡ぐん小こ向むかう当と鶴づる	太たノのノのノの原ら	反たん	小こ根ね
田た塚づ更ふけ本と上み田た枝え田て町まち田だ町まち杉すき杉すき町まち町まち				
	(雀)			
四三五三三〇六七〇六五七〇五四三九七四				

五四三三三〇元六七〇五四三三二〇九八七六	平ひら治じ慶け小こ上う城し瀬せ城し山まや天て松じ天て上み前まえ下し岩いわ屋や田た大お喜き
郎ろうノのノル戸とノルノンノンノのノ	神じん梅ぼし神じん屋や屋やノのノの根ね
畑たけ老う徳と原ばる堀ほり辻つ脇わき平ひら上う山ざん田た敷しき田た敷しき下し内うち竹たけ更ふけ郎ろう	四し

三四八四四〇五六五五三三六三〇七五五二六三〇九〇五六六二五五
四五〇四三〇四七〇三〇五五四三三三七三三七三〇六〇六〇六〇六〇六〇六〇九〇一〇九〇一〇六〇一〇六〇

長なが 小こ 八はつ 柿かき 桑くわ 住すみ 長なが 髪かみ 住すみ 住すみ 鍬くわ 五ご 売いう 養よう 茶ちや 橋はし 大お 塔とう 原はら  
反たん 吉よし 吉よし のの 反たん町ちよう 峯みね 面めん 園えん のの 松まつ ノん  
ノの 反たん町ちよう 峯みね 面めん 園えん のの 松まつ ノん  
塚つか 又また 田た 田だ 原はら 後うつ迫さき 永なが 吉よし 前まえもん 田た 田だ 寺じ 番ばた 詰めら 保ほ 地ち

四五五	五一〇	五二九	五三八	五六二	五六七	五八九	六三二	六四八	六五九	六七九	六八九	六九五	七三一	七五四	七八四	七九六	八〇四	八一三	八一九
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

五〇九	五二八	五七三	五六一	五八八
八二〇	八一八	七九五	七五三	七三〇
八一二	八三三	七八三	六八四	六七八
八〇三	八〇三	七五八	六五八	六四七
七九五	七九五	七二四	六七八	六七八

五五 五六 五七 五八 五九 五六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五

菰こも 力ちから 成なり 法ほう 成なり 尾お 郷ごう 官かん 榎えのき 鮎あい 長なが 免めん 平ひら ナ 二に 中なか 松まつ 井い  
宮みや 峰みね ベべ 華け 重しげ 華け 四し 者じや 倒とう ノの カか レれ ノの

九五 九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六

小に 迫さ中なか吉よし迫さ小に原はる屋や西さい平ひら瀬せ合ご吉きつ後しき鳥とり宗そう貞さだ貞さだ貞さだ  
迫さノン 御み 方ほうノン戸と士し 居い源げん清きよノン清きよノン  
塚づか 上うえ尾お畠たけ畠ばたけ堂どう口くち敷しき寺じ上うえ口くち冠くみ坂ばか平べら原ばる原ばる前さきよ  
前

焼や長なが金かな草く狐きむ谷たん中なか佛ほど坂さか大お塚つか三み土と下しも風か石し横よ壱いっ  
ヶけ吉きち場ばのんノ久く角がい井の丁ちよう  
平ら尾お坂さか懷くら野の迫ざざ原ばる保道道ちも迫せきつじ保ほ畠ばる野の内うち穴あな佛ほけ手手畠ばる

源げん上うえ高たか割わ野の丸まる長なが後うしろ白しら大お吉よし灰くろ狸たぬき船ふな鉢はち博はか塩おし鮭なます面めん前まえ  
六ろくノの野の内うち金かね久く牟む木きノの多た井い高こう  
山やま山やま山やま石石石上うしろ尾お尾お迫さざな尾お保ば田た迫さざな平ら石いし水みず石いし川川川山ざん川ざん

一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五 一五二 一五三 一五四 一五五

町まち本もと田だ藤ふじ田だ坪ばつ塚つか田で野の野の尾お尾お尾お川がわ山やま石いし山やま田だ敷しき口くち

一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六三 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五

口く五ご宮みや下しも上かし石じ田た葛く日ひ又また寺て西にし柳やねしも栗く長なが上か太え瓦わら深か  
ノの反た 講も謙もケが ノの五ご屋や ノのケが反た 五ごケが 太え  
坪つぼ田た鳴じ足足籠原本もと敷しき田た更ふけ坪つぼ田た坪つぼ測ち木ぎ木ぎ田た町まち

二、五四  
二、五五  
二、五八  
二、五九九  
二、六二二  
二、六三  
二、六四〇  
二、六四一  
二、六四八  
二、六五七  
二、六六九  
二、六八四  
二、六八四三  
二、七六六  
二、七三六五  
二、七七〇  
二、七八七  
二、八〇七  
二、八六七  
二、八六七六

一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五

通とおり 龍た似に 堂どう 西に 影げ 迫さ 丸まあ 天てん 迫さ 馬ば 小しう 中なか 出で 中なか 龍りゅう 生しよう 龍りゅう  
ケが多た ノノノの 迫さ 神じんノの 村む林りん竹ちく源げん谷たに  
戸と鼻はな野の所ど 迫さ 木き向い 尾ろ原はる上うえ場は路じ村むら口くら原ばる寺じ林ばなし寺じ

三、五、四	三、五、六	三、五、七	三、五、八	三、五、九	三、五、十	三、五、十一	三、五、十二	三、五、十三	三、五、十四	三、五、十五	三、五、十六	三、五、十七	三、五、十八	三、五、十九	三、五、二十	三、五、二十一	三、五、二十二	三、五、二十三	三、五、二十四	三、五、二十五	三、五、二十六	三、五、二十七	三、五、二十八	三、五、二十九	三、五、三十	三、五、三十一	三、五、三十二	三、五、三十三	三、五、三十四	三、五、三十五	三、五、三十六	三、五、三十七	三、五、三十八	三、五、三十九	三、五、四十	三、五、四十一	三、五、四十二	三、五、四十三	三、五、四十四	三、五、四十五	三、五、四十六	三、五、四十七	三、五、四十八	三、五、四十九	三、五、五十
-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	--------

番号	大字 花月 (はなつき)	一字 楓なら
六 五 四 三 三 二 一 〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一	音と 安ん 山や 荒ら 小お 江え 松ま 戸と 塚か 土と 彦ひ 小こ 白し 岡お 鉢は 供く ノン 井い ノの 山や 手て 本も ケが 養よ 無な 全ぜ 下た 平ひら 迫ざ 下げ 本も 田だ 原わ 添ぞ 田だ 坪ぼ 石じ 回り 坪ぼ 町まち	字
地	番	原はら
三〇 七 一九 六 二 一五 三 一五 二 一四 三 一〇 一九 五 一六 一五 一七 一六 一三 一三 一		
三五 三〇 一五 一九 二六 一五 三三 三三 一〇 一九 七 一六 一七 一六 一七 三三 二		

六 五 四 三 三 三 三 〇 元 六 七 六 五 四 三 三 三 〇 元 八 七	城じ 水みず ウう 中な 上う 猪い 丸ま サさ 内ま 川わ 丸ま 横よ 土ち 城じ 柳ま 床ど 垣か ツつ 外と 城じ ノの ノの 藤じ 野の ノの 輪わ 越し 口く ドと 尾お 山ま 草く 尾お コこ 山ま 端ば 田て 枕ら まくら 尾お 本も 浪な 添ぞ ルる 町まち
---	---

六四	六三	六二	六〇	五六	五四	五九	四八三	四五三	四六	四二	四〇	三六	三五九	三五二	三四四	三三九	三六
六七	六三	六二	六〇	五九	五八	五七	五五五	五三	五八	四八二	四五	三四五	四一	四〇五	三七九	三六五	三五八

へへ坂さ案あハは堂どう山や小お井い梅め板いた長な野の穴あなソソ村むら堂どう現げん爪つめ井い  
リリノンノのンンノの 手で 香か居い ヲお ノン堂うノンスす  
平びら下した山やまゴ前まえ口ち鶴づる鶴づる鶴づる鶴づる田た田だ倉らくミミ廻まわり上う寺じ谷にミミ堀ぼり

六七五  
七五五  
七八五  
八四二  
八八七  
九〇四  
一〇七六一  
一〇四二一  
一〇五四一  
一〇八四一  
一二二二一  
一二五二一  
一二六九一  
一四六一  
一四六七一  
一三五五一  
一三三三一  
一三一三一  
一四八七一  
一五七七一  
一五七五一

五七 五八 五九 五〇 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六

流れ木は中なか東とう西にほんツつ田た大う石う古うる高たか三み大おお大う萩うき隠かくれ花は坂さか  
れれ夕たののノルるのノの屋や狐ニ久く平ひら燈とう  
ノンノの  
平らチチ坪ば代じ平ら村む前まえ平ひら迫さ坂さか敷しお尾ね石じ保ほ谷だに原ら迫ざ畑ば月つ山やま

一、六七八  
一、七〇一  
一、七五  
一、七八不  
一、八四  
一、九〇一  
一、九三  
一、九八  
二、〇四  
二、〇八  
二、一  
二、二  
二、六六  
一、六七

九六 九五 九四 九三 九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八〇 七八 七九 七八 七七

ほんほんウチ千せん長なが上うえ冷ひ水みず鮎あい鳴なる藤ふじツツクク駄だウチ鳥とり山ま野の廻も土ど  
トド段だんノンララグくドノン田だんり用ゆう  
力がダだりリガガ  
平だら迫さこいい原峰みはる迫さこ水みず無なし返えり止止め迫さこ止止め口くち迫さこ岩岩わらか山やま  
平ひら

二、一三一	二、一四八
二、一四九	二、一四九
二、一七五	二、一七五
二、一八八	二、一八八
二、二四三	二、二四三
二、二六四	二、二六四
二、二八八	二、二八八
二、三〇七	二、三〇七
二、三五〇	二、三五〇
二、三五九	二、三五九
二、三九八	二、三九八
二、四〇九	二、四〇九
二、四一〇	二、四一〇
二、四六七	二、四六七
二、五二八	二、五二八
二、五三九	二、五三九
二、五六七	二、五六七
二、六二三	二、六二三
二、六六八	二、六六八
二、七〇六	二、七〇六

梅うめ梅うめ仮かり堂う杉すき大おみみ中なかムム權ごん坂さか二に足あしドと小こ仙せん源げん小こ更ふけ  
ノのノの才お夕た現げんノン反たんケガウラ塚つか太だ石いし  
木きノのノのケケノの  
奥おく木き屋や田だ山や平ひら田た磯そ上うら平らべ辻つじ峠と迫さきンん上うら塚つか道どう郎郎坂さか原ほる

一一七 一一八 一一九 一一〇 一一一 一一二 一一三 一一四 一一五 一一六 一一七 一一八 一一九

白しろ口くち堀ぼり村むら尾お上かみ迫さこ尻しり谷で尻しり内ち塚づか陣じん内ち原はら郎ろう 山やま平べら

四、〇一四  
四、〇九八  
四、二一四  
四、二一四  
四、一五二  
四、一七六  
四、二七五  
四、三六〇  
四、三六八  
四、三七〇  
四、三七一

## 三花の歴史・略年表 (伝は伝承)

年号	弥生時代	古墳時代	西暦
延暦一三	天武八	大化元	五〇〇～
天平九	和銅四	六四五	四〇〇～
七九四	七三七	六七九	用松古墳、迫横穴墓ほか
一〇	平安京に遷都する	大化の革新が始まり、班田收受の法が行われる 条里遺跡はそのあと	用松古墳、迫横穴墓ほか 伝・藤山の恒雄が忍辱法師となる 彦山開祖のひとり
一四三一	「農後國正税帳」がつくられる 日田郡のことを記載	伝・八幡神が岩松ヶ峰（天瀬町鞍形尾）に示現する。 伝・千倉に北辰社をまつる	（石包丁）、鍬ノ本遺跡ほか 羽野横穴墓群

延長三	天暦六	承保二	嘉保二	建久三	應永四	暦應元	ノ一九	ノ三〇	永享三
九二五	九五二	一〇七五	一〇九五	一一九二	一三九七	一三三八	一四一二	一四二三	一四三一
一二	日田郡五郷のこととを記載	「豊後風土記」がつくられる	大藏永季が相撲の節会に出場のことが「中右記」などに記載される	源頼朝が鎌倉に幕府をひらく	足利幕府がはじまる	大藏永息が筑前江辺で大内軍と戦つて戦死する	大藏永息の次男永清が財津に住んで財津氏を称する	永清の次男永豊は羽野に住んで財津氏を称する	伝・大藏永好が殺され、その靈
一	まつる	社にまつる	大藏永季が相撲の節会に出場のことが「中右記」などに記載される	源頼朝が鎌倉に幕府をひらく	足利幕府がはじまる	大藏永息が筑前江辺で大内軍と戦つて戦死する	大藏永息の次男永清が財津に住んで財津氏を称する	永清の次男永豊は羽野に住んで財津氏を称する	伝・大藏永好が殺され、その靈

文 安 二	大 永 二	享 祿 元	天 文 元	ク 七	ク 一 七	
一 四 四 五	一 五 二 二	一 五 二 八	一 五 三 二	一 五 三 四	一 五 四 八	
一 一						
財津永満が大友氏の命により、 氏が跡を継ぐ	財津永胤が秋月軍と筑後甲石で 武下氏を討つ	財津永胤が秋月軍と筑後甲石で 戦つて戦死する	財津永胤が秋月軍と筑後甲石で 戦つて敗れ 周防山口に 瀬軍と戦つて敗れ 周防山口に 逃れる	財津永満が大友義鑑の勘気をう け、堤軍と戦つて破る また高 瀬軍と戦つて敗れ 周防山口に 逃れる	財津永満が大友日田氏が断絶する 像を奉じて帰国し 竜林寺にま つる	大友日田氏が断絶する 財津永 満が八大群老のひとりに任せら れる
この後、財津氏を含む日田の諸 士は大友軍に参陣して筑前、筑 前で田北紹鉄を討ち、財津永尚 が首級を擧げる 財津永秋が戦 死する	羽柴秀吉が報復する	大友宗麟が高瀬地陣原に出陣 し、財津鎮則が参陣する	大友宗麟が高瀬地陣原に出陣 し、財津鎮則が参陣する	大友日田氏が断絶する 財津永 満が八大群老のひとりに任せら れる	この後、財津氏を含む日田の諸 士は大友軍に参陣して筑前、筑	

天 正 二	ク 四	ク 七	ク 八	ク 九	ク 一 〇	ク 二 二
一 五 七 四	一 五 七 六	一 五 七 九	一 五 八 〇	一 五 八 一	一 五 八 二	一 五 八 四
後、肥前等各所で戦う	石井の高井嶺に筑後問註所軍が 侵攻、財津永忠らが戦つてこれ を破る	彦山攻めに参戦する	財津鎮則、同永尚らが大友軍の 彦山攻めに参戦する	財津永忠が円誉上人を迎えて竜 川寺を再興する	財津永三らの日田諸士が大山松 原で田北紹鉄を討ち、財津永尚 が首級を擧げる 財津永秋が戦 死する	大友宗麟が高瀬地陣原に出陣 し、財津鎮則が参陣する
同じく猫尾城攻めで財津鎮則が 戦死する	同じく猫尾城攻めで財津鎮則が 戦死する	羽柴秀吉が報復する	大友宗麟が高瀬地陣原に出陣 し、財津鎮則が参陣する	大友日田氏が断絶する 財津永 満が八大群老のひとりに任せら れる	この後、財津氏を含む日田の諸 士は大友軍に参陣して筑前、筑	



明和八	享和三	天明三	嘉永三	文政七	一〇	一八五〇	一八五一	三
一七七一	一八〇三	一七八三	一〇	一八二四	一八一七	一八一二	一八〇七	五
竜川寺薬師如来縁起を板行する 内に葬る	僧豪潮が羽野天満宮に宝篋印塔 を建立する	八大竜王像を建てる	伊能忠敬が伏木から財津へ羽野 を測量する	塩谷正義が日田代官に任せられ る	廣瀬淡窓が千倉金毘羅社に参詣 する	廣瀬淡窓が石坂を改修する 奉獻する	山田常良が石坂を改修する する	刑死する
竜川寺竜作上人が寺 を建立する	僧豪潮が羽野天満宮に宝篋印塔 を建立する	八大竜王像を建てる	伊能忠敬が伏木から財津へ羽野 を測量する	塩谷正義が日田代官に任せられ る	廣瀬淡窓が千倉金毘羅社に参詣 する	廣瀬淡窓が石坂を改修する 奉獻する	山田常良が石坂を改修する する	刑死する

明治元	ク	四	慶応三	ク	六	安政五
	ク	一八六八		一八六七	一八五九	一八五八
四	三	ク	一二	八	四	六
日田県が設置され、六月に松方正義が知事に着任する 吏員がある	大原神宮寺での騒ぎをきっかけに日田郡民が蜂起し、小野筋では千倉金毘羅社に群集して気勢をあげる	窪田郡代が日田を退去する	窪田郡代が防衛のため千倉金毘羅山上に大砲を構える	王政復古が宣言される	同じく、山田原で大砲射撃訓練を行う	大蔵永常の最後の著述「広益国産考」が刊行される 郡代窪田勝が制勝組を率いて更原で大調練を行う
						幕府が「日米修好通商条約」を調印する

明治七	明治六		明治五	明治四	明治三
一八七四	一八七三		一八七二	一八七一	一八七〇
一〇	一〇	八	六	二	一
花月学校が市ノ瀬にできる	三和学校が龍川寺にできる	を置く	大区・小区制により県下の町村を八大区・一五九小区とする	第八大区会所（市郷会所）を設置する	用松の広瀬勝造また高取成章が挙げられる
会所を廃し、小区ごとに用務所	学制を制定する		羽野・用松・財津・藤山・秋原・台・伏木の各村は八大区・二小区に編入される（市ノ瀬は一小区）	大分県が置かれ日田県を編入する	竹槍騒動で羽野村庄屋宅等が打ちこわされる 東員高取成章らが鎮圧に向かつたが失敗する

明治三一	明治二七	明治二三	明治一七		明治八
一八九九	一八九四	一八八九	一八八四		一八七五
一八八七	一八八四	九	二	八	三
夏目漱石が大石崎を経て日田を	日清戦争がおこる	市制・町村制が施行される（小河内経由）	日田一中津間県道が開通する	三和村・花月村連合村となる役場を財津に置く	三和村（羽野・用松・財津）、花月村（藤山・秋原・台・伏木・市ノ瀬）が誕生する
花月川大洪水	となる	三和村・花月村合併して三花村			

明治三三	一九〇〇	訪れる
明治三四	一九〇一	中津に赴く
明治三七	一九〇四	森鷗外が日田から大石峠を経て
明治四〇	一九〇七	工高)が創立される
明治四一	一九〇八	日露戦争がおこる
明治四二	一九〇九	日田郡立工業徒弟学校が創立さ
明治四五 (大正元)	一九一二	れる(明治四五年に郡立工芸学 校と改称)
九	五	このころ三花村の電灯点灯戸数
一〇	一〇	二八戸
一〇	一〇	三花村秋原に大火がおこる(旧 暦三月)
一〇	一〇	日田郡立工芸学校に女子部を創 立する(郡立実科高等女学校等 と改称の後、大正一二年大分県 立日田高等女学校となる)
一〇	一〇	花月尋常高等小学校を市ノ瀬 (現在地)に改築移転する
一〇	一〇	三和尋常高等小学校を用松(現

大正三	一九一四	在地)に改築移転する
大正五	一九一六	日田ー中津間県道が開通する
大正八	一九一九	(伏木経由)筑後軌道が全線開通する(豆田 駅開業)
大正九	一九二〇	バス営業が始まる
大正一二	一九二三	高)が創立される
大正九	一九二〇	大分県立日田中学校(現・日田 駅開業)
大正五	一九一六	伏木湿田の耕地整理事業が完成
大正八	一九一九	する
大正九	一九二三	羽野に街頭を設置する
大正一二	一九二三	三花村役場を改築する(財津町)
昭和一二	一九三七	藤山に三花郵便取扱所を開設す
昭和一〇	一九三七	る
昭和九	一九三四	久大線が開通する
昭和四	一九三五	三花郵便取扱所が三花郵便局に 昇格する(集配は昭和一一年か ら)
昭和一五	一九二九	伏木牧場を開設する
昭和四	一九二九	日華事変がおこる

昭和一五	一九四〇	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和一六	一九四一	三花村誌（日田郡教育会編・日田郡町村誌のうち）が書かれる
昭和一七	一九四二	「財津家譜」が刊行される
昭和一九	一九四五	第一回市会議員選挙
昭和二〇	一九四六	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二一	一九四七	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二二	一九四八	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二三	一九四九	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二四	一九五〇	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二五	一九五一	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二六	一九五二	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二七	一九五三	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二八	一九五四	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和二九	一九五五	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和三〇	一九五六	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和三一	一九五七	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和三二	一九五八	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる
昭和三三	一九五九	日田町と三芳・高瀬・光岡・朝日・三花・西有田の一町六カ村が合併して日田市となる

昭和二二	一九四五	伏木開拓団の入植が始まる
昭和二三	一九四六	学制改革（六三制実施）北部中学校開校 花月小学校に北中花月分校を併設する
昭和二四	一九四七	第一回知事・市町村長選挙
昭和二五	一九四八	第二回市会議員選挙
昭和二六	一九四九	昭和天皇巡幸 伏木開拓団を励まされる
昭和二七	一九五〇	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和二八	一九五一	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和二九	一九五二	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和三〇	一九五三	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和三一	一九五四	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和三二	一九五五	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
昭和三三	一九五六	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
四	三	伏木開拓団の入植が始まる
四	四	学制改革（六三制実施）北部中学校開校 花月小学校に北中花月分校を併設する
四	五	第一回知事・市町村長選挙
四	六	第二回市会議員選挙
四	七	昭和天皇巡幸 伏木開拓団を励まされる
四	八	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
四	九	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
四	一〇	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
四	一一	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける
四	一二	伏木原野に大火 大将陣山一円の市行造林など三四六・五ヘクタールが焼ける

昭和五二	昭和四一	昭和三九	昭和三七	昭和三六	昭和三五	昭和三四	昭和三四
一九七七	一九六六	一九六四	一九六二	一九六一	一九六〇	一九五九	一九五九
四	三	二	一〇	五	一〇	四	四
中学校の一部を統合し、戸山中 学校を設置する	天神町に緑ヶ丘第二幼稚園が開 設される	天神町に、るんびにい保育園が 開設される	龍川寺に、るんびにい保育園が 開設される	千倉ダムが完成する	市内の二三農協が合併して日田 市農業協同組合が発足する	市内の一三農協が合併して日田 市農業協同組合が発足する	市内の一三農協が合併して日田 市農業協同組合が発足する
昭和五七	昭和五九	昭和六二	昭和六四	昭和六一	昭和六二	昭和六四	昭和六四
一九八二	一九八四	一九八七	一九八九	一九九〇	一九九〇	一九九〇	一九九〇
「財津町誌」が刊行される	三花公民館を新築する	「伏木近代史」が刊行される	清水町に三和スポーツ広場が新 設される	九州横断自動車道の日田ー鳥栖 が開通する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する

昭和五七	昭和五九	昭和六二	昭和六四	昭和六七	昭和六九	昭和八二	昭和八四
一九八二	一九八四	一九八七	一九八九	一九九〇	一九九〇	一九九〇	一九九〇
一〇	三	四	二	一	一	一	一
「財津町誌」が刊行される	三花公民館を新築する	「伏木近代史」が刊行される	清水町に三和スポーツ広場が新 設される	九州横断自動車道の日田ー鳥栖 が開通する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する	清水町に大分県済生会日田病院 が開院する
昭和五七	昭和五九	昭和六二	昭和六四	昭和六七	昭和六九	昭和八二	昭和八四
一九八二	一九八四	一九八七	一九八九	一九九〇	一九九〇	一九九〇	一九九〇

## あとがき

三花公民館の呼びかけで、三花地区の郷土史誌をつくろうという話が始まつたのは、昭和六二年もあとわずかのときだつた。

三花地区内では既に『財津町誌』『伏木近代史』という町史の労作が、刊行されていた。これを地区全体に拡げたものをつくろうというのである。

私たちの先人がどんなことを考え、どういうくらいをし、どんな事がらを後世の私たちに残してくれたのか、確かめてみよう。そして、私たちはいま何をすればよいのかを探る手がかりとして、まとめてみよう。

太平洋戦争の終結を境にして、日本はすべてがガラリと変わつた。高度経済成長以後は価値観までが引っ越し返つてしまつた。過去のことを確認するには、もう遅いくらいだが、それでもまだ明治生まれの長老も健在だ。だといつて、これ以上延ばしていたら、ほとんど生きた歴史の発掘は不可能になつてしまふかもしれない。この際できるところまでやってみよう。

そういうことで、仕事は起こされた。

各町内から一～二名ずつ出た委員は、編纂と刊行の二部会に分かれて、事にとりかかつた。

実際にかかつてみると、何かと困難が多い。わからないことばかりだ。

まずこれまで記録された資料というものが、はなはだ少ない。及ぶかぎりあれこれと拾い集めて、利用できるだけ利用した。

それにしても、先人の残された記録・文献はたいへんありがたかつた、たとえわずかでもそれがなかつたら、この小説はあり得なかつただろう。深く敬意を表したい。

地区の皆さんにもお願ひして、いろいろの資料を出していただいた。お訪ねして話をうかがつたり、現地を案内いただいたりした。

たいへんお世話にもなり、ご迷惑をおかけもした。厚くお礼申し上げたい。

そうして六年。ともかくも刊行に漕ぎつけることができた。

出来栄えが決して満足のいくものでないことは、何より筆をとつた私たち自身がよく知っている。

しかし期日も長くなつたので、ひとまず収集し得た資料をまとめて、一本とするこにした。

編述の要領はおよそ次のとおりとした。

一 記述は、読みものとしても気軽に読めるよう、平易にとつとめたが、内容は事実に正確であることを期した。

一 対象とする期間は、太平洋戦争終結の時までとした。ただし関連のある事がらについては、戦後にも及んでいる。

一 人名は原則として敬称を略したが、例外もある。

一 引用文は出典を『 』で示した。

一 参考文献はその個所ごとに注記せず、巻末に一括して挙げた。

一 談話によつて記述した場合も、いちいちその個人名を示さず、巻末にまとめた。

一 執筆者別による文体の違いはそのままにして、統一をはかることはしなかつた。

一 なお、なるべく読みやすくするように心掛けたつもりだが、写真、文章ともなかなか思うようにいかなかたのは心残りである。

また、記述が不充分だつたり、内容の誤まりもあるに違ひないが、ひとりでも多くの方に読んでいただきて、どんなに小さなことでも、ぜひ御意見や教示をいただきたい。地区の皆さんのが指摘で、ひとつひとつ正しい姿に

充実していけたら、こんなにありがたいことはない。

そして何年か何十年かのちに、また新しい郷土史誌が書かれるようになつたら、この小誌を世に出した私たちとしては、以て冥すべきである。

この書、名づけて『三花風土記』とする。

平成五年十二月

執筆者一同

執筆分担

三花郷土史誌づくり委員会

委員長

小河内町

財津 徹

岩沢 光夫

第一章 第一節

副委員長・編纂部会長 財津町 大内 房夫

編纂部委員 天神町 岩沢 光夫

第二章 全

秋原町 石松 良行

第三章 全

清水町 浜田喜一郎

第五章 第二節

三和団地 坂本 晃

第六章 第二節

副委員長・刊行部会長 天神町 故樋口孫右衛門

付録 一

秋原町 財津町 謙山 洋介

浜田喜一郎

伏木町 藤山町 長尾 正

第一章 第二節

市ノ瀬町 木松 益美

第四章 全

財津町 浦塚 時雄

第五章 第一節

秋原町 高倉 巖

第六章 第一節

天神町 田中 清

第七章 全

柏原町 榎原 一美

付録 二

松井 吉長 日野 正則

(第三章第一節、第二節、第五章第一節は、大内房夫

の稿をもとに記述)

事務局長

三花公民館長

主事 前任

カバー・さしえ岩沢光夫  
さしえ石井明子

主事

松井

顕一

## 引用・参照文献

引用または参照した文献のおもなものを、関係の分野に区分して挙げる。ただし、一分野で挙げたものは、他の分野では再出しない。記載は、書名または論文名、著編者または全集、雑誌名、発行所の順。

### 歴史

豊後風土記（岩波古典文学大系） 岩波書店  
豊西記 大蔵和市（編） 大蔵三光堂  
豊西説話 森 春樹 山田精一  
造領記 森 春樹 日田市教育委員会  
九州天領の研究 杉本 熱（編） 吉川弘文館  
日田御役所から日田県へ 帆足達雄・広瀬恒太 帆足コウ  
大分県史（古代篇） 大分県

教育・文化

羽野横穴墓群発掘調査概報 大分県教育委員会  
日田市史 曰田市  
日田市十年史 曰田市  
日田市二十年史 曰田市

日田市三十年史 日田市  
日田記 芥川龍男・財津永延（編） 文献出版  
財津家譜 武石繁次・大蔵和市（編） 財津家譜編纂部  
懐旧樓筆記（広瀬淡窓全集） 思文閣  
永山神主日記録抜萃 首藤助四郎（日田文化21号）  
享保十年豊後國日田郡羽野村明細帳写 日田市教育委員会  
(大分県地方史料叢書(1)) 大分県地方史研究会  
九州の浪人・財津久右衛門・永治 熊谷武雄（天領日田第五号）  
天領日田を見直す会  
西堀の騒擾 安心院嘉六 日田市教育委員会  
火はわが胸中にある 沢地久枝（株）文藝春秋  
日本史年表 歴史学研究会（編） 岩波書店  
明治のむら 大島美津子 教育社  
亀山鈔 森 春樹 日田市教育委員会  
蓬生談 森 春樹 日田市教育委員会  
日本教育小史 山住正己（岩波新書） 岩波書店  
日本史小百科「学校」 海原 徹 近藤出版社

三花村誌　日田郡町村誌編纂会

教英中学の研究　高倉芳男（日田文化16号）

日田市教育委員会

水田の考古学　工楽善通　東京大学出版会

大分県史（近代篇・民俗篇）大分県

大分県の百年　大分県

浦塚茂自叙伝　浦塚茂　自家版

伏木近代史　梶原喜美雄　自家版

学校要覧　三和・花月・伏木各小学校、北部、戸山各中学校

百年のあゆみ　花月小学校、伏木小学校

咸宜園入門簿（広瀬淡窓全集）　思文閣

咸宜園出身八百名略伝集　中野　範　広瀬先賢顕彰会

宜園百家詩　大阪、河内屋茂兵衛

天領日田の文化財　日田市教育委員会

日田俳壇の変遷　井上柿巷　日田市教育委員会

近世九州俳壇史の研究　大内初夫　九州大学出版会

財津文書（日田市立淡窓図書館蔵コピー）

日田総合文化展出品目録　日田市、日田市教育委員会

図説豊後刀　山田正任　雄山閣

日田市百年の歩み　岩尾清一

産業・交通

日田市百年の歩み　岩尾清一

日本の歴史　井上　清（岩波新書）　岩波書店

大分県と文学　小野茂樹　藤井書房

三隈鈔　千原豊太

日田の先哲　日田市教育委員会

日田市教育委員会

日田水害史　池田範六　日田時報社  
日田市立博物館

伊能忠敬測量日記　今永正樹（編）九州ふるさと文献刊行会  
伊勢社参道中日記・田辺仁郎次（諸家日記）

天皇陛下日田行幸記

廣瀬正雄

方芦

『俚言鈔』を追跡する 松田正義（現代方言学の課題）

明治書院

日田市寺院等調査録 日田市老人クラブ連合会

農山漁村文化協会

福岡県ことば風土記 岡野信子 輿書房

しゃれことば 安倍薦滿 枠築方言研究会

豊後国志 唐橋世済

二豊文献刊行会

大分県郷土史料刊行会

全国方言辞典

福岡県ことば風土記 岡野信子 輿書房

日田郡志 森仁里

豊後国日田郡村誌（氣運生動）末広利人（編）帆足コウ

日本語相談

東条操 東京堂出版

貝原益軒杖植紀行 広瀬登美雄（天領日田第七号）

三谷方言集

三光村の民俗と方言 溝口連 むかし話をする会

日田紙に関する調査のために 首藤助四郎（天領日田第八号）

天領日田を見直す会

三光村教育委員会

日田紙に関する調査のために 首藤助四郎（天領日田第一〇号）

天領日田を見直す会

天領日田を見直す会

その他

犬太郎 高瀬重市（天領日田第一〇号）

天領日田を見直す会

日田市教育委員会

日田金石年史 武石繁次

財津町史 財津町誌編纂委員会

大分県の民謡 大分県教育委員会

くらしのことば 西義助 不知火書房

習俗

大分歳時十二月 染矢多喜男 西日本新聞社

詩誌・昼行燈 宿利博幸 自家版

日田・玖珠盆踊口説集

日田市教育委員会

資料提供者（敬称略・順不同）

刊行委員を除く

伏木町 梶亥三郎 故梶原松雄 柳瀬隆喜 梶原政  
丸 小河内町 謙本正喜 財津三喜治

地区外 桑野陽吉 高瀬重市 吉水善無畏 吉田松  
之助 野田ハルコ 谷本登 川津信雄

日田市立淡窓図書館 日田市立博物館 日田林工高等  
学校 北部中学校 戸山中学校 三和小学校 花月小  
学校 伏木小学校

竜川寺岩橋法雄 照妙寺高取義教

天神町 故財津四郎 日野飛龍 宮川信子 大内強  
横尾龍助 故樋口明 樋口亀雄 田中秀一 田中晃

財津定美

清水町 用松丹吾 故立花忠藏 立花満 貞清政勝

伊藤清 謙山尊士 高倉キヨコ 立花朝守 立花豊

立花寛吾 立花忠 棚野新平 武内好高 謙山鼎三

棚野和夫 棚野有国 森山秀義 用松松子

財津町 故浦塚門次 熊谷浦吉 浦塚隆章 熊谷幸一

郎 財津達男 末広良高 大塚義種

藤山町 荒川雅義

秋原町 井上誠 華藤工イ

市ノ瀬町 榎原栄 財津乙松 佐々木一平

自治会長・自治会班長の各位にも、資料提供ならびに  
刊行について、たいへんお世話になつた。

『三花風土記』 発刊贊助費寄付者芳名録

各一万円

敬称略

横尾	坂本	中村	河野	通介	山上	寿	武内	良男
糺士	芳雄	山城	高良	諫山茂太賀	山田	節子		
塙谷	宮川	日野	財津	梶原	武内	治男		
松本	信子	飛龍	巖	勝義	出野	交一		
勇次	横尾平三郎	日野	東口良太郎	日野	出野	学		
(財津町)	田中	正則	正則	大内	神	恒行		
立花	立花	田中	秀一	大内	神	恒行		
立花	立花	田中	秀一	直	神	恒行		
藤原	寛吾	立花	貞雄	直	神	恒行		
武内	正夫	立花	貞雄	橘	橘	橘		
好高	用松	立花	貞雄	橘	昭寿	昭寿		
末広	高倉	立花	貞雄	樋口	正利	正利		
良高	貴司	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
財津	達男	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
郡吉	熊谷	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
浦塚	淳	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
寅彦	諫山	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
	文彦	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		
	豊	立花	貞雄	樋口	樋口	樋口		

(市ノ瀬町)

財津準之典 佐々木一平

菅原 勇吉

財津 乙松

田中

道夫

財津 信 末松 益美

財津龍之典

樺原 春夫

山本

後藤 学 中島 靖昌

山本

正明

井上

(伏木町)

長尾 勝弘 柳瀬 隆喜

樺原

春夫

正喜

(小河内町)

財津 晴吉 財津 久人

財津

久人

諫本

(地区外)

森山 善明 貞清 諫山 太平

財津

久人

諫本

(豆田町)

財津 徹 財津 晴吉

財津

久人

諫本

(北九州市)

財津 貞清 諫山 太平

財津

久人

諫本

(烏栖市)